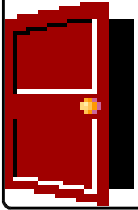


令和5年度《昨年度に続き、今年度も読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

N o 74

桑村小学校令和6年1月12日

文責 渡邊

本を読み、自分なりに表現するとは!!

私は、これまで仕事の関係で多くの教育書を読んできました。若かりし頃は、「あっ、これは大切だな」と思った箇所をマーカーで線を引き、読み返すときに分かりやすくしてきました。そうした取組は、いつしか自分ノートへの書き込みに変わりました。A先生のこの文言は大切にしたいなと感じたら、ノートに書き写してきたのです。(まるで受験勉強みたいですね!)

そして、それは現在、パソコンに入力しデータ化することで、職員研修等で活用するようにしています。自分だけの財産にするのではなく、職員と共有することで学校の財産へと高めていきたいと願ったのです。

さて、本を読むという行為だけでは受け身の行為で終わってしまいます。しかし、本を読むことで自分がどういうことを感じ、考えたのかを表現することで、自己の思考が深まり主体的な活動へと発展していくように思います。

本校の子供たちは、読書後に『読書記録』として感想等を綴っています。これが果たして読書活動に必要であるかと問われれば、私は迷わず「必要である」と応えます。読書から得たものを自分なりに表現することで、「豊かな感性」や「深い思考力」等が育まれることが期待されるからです。

最近のものとしては、『ものがわかるということ』(養老孟司著 祥伝社 令和5年2月)を読んで感じたことを職員に伝えました。以下、私が職員に贈ったメッセージを載せます。

令和5年度、本校の学校教育目標は、『夢に向かい 感性を育む 桑っ子』である。本校では、令和4年度に豊かな体験活動と読書活動をつなぐことで、「感性」を育んできた。そして、その実践から「感性」の育成の重要性を再認識した。養老氏も、「感性」の大切さを今回、著している。情報化社会に生きるからこそ「感性」を大切にすべきだと主張している。

本校の経営構想と養老氏の主張しているところに類似点があるところが嬉しい。

「自分が変わる」という文言も大好きだ。初任校で尊敬する先生に出会い、いろいろと学ばせていただいたことが、今の自分としてある。先生方にもそうした方がおられるかと思う。私の尊敬する先生は、教室に「自分を変える」の文言を大きく掲示されていた。それは、子供とともに教師も成長していくことが大切だという意味であると私は捉えた。(転任するときに、その方からその掲示物をいただいた。そして、前任校の校長室に掲示した。もう、30年以上大切にしてきたということになる!)

社会はどんどん変化している。私たち教師が同じ場所に留まっていたら、新しい時代を切り拓く子供たちの指導はできない。子供も教師も「自分を変える」を大切に、新しい一歩を踏み出していこう。

先生方へ

先生方も、「この本はいいよ」というものがありましたら是非、紹介してください。桑村小学校の研修では、そうしたスタイルを採ることができるように思います。養老氏の『ものがわかるということ』(養老孟司著 祥伝社 令和5年2月)は校長室にありますので、興味のある方は校長に声を掛けてください。新たな教育観に触れ、刺激を受ける姿勢はこれからも大切にしていきたいと切に願います。

これまで何人かの職員が校長室を訪れ、私の図書を借りていきました。しかし、残念なことに、その図書についてじっくり意見を交わすことはありませんでした。いつしか話ができたらと切に願うところです。